オシロ池の地蔵さん

ずっとむかし。

近崎村の南のはずれ、北尾村との境に、小高いおかと小さい池がありました。そのおかには、お地蔵さんが立っておられ、そのお姿を池にうつしていました。このお地蔵さんは、村の人たちのいろいろな願いをかなえてくださるありがたいお方です。

お地蔵さんは、たいへん不思議なことに、両手が金のように光っていました。日中はお日さんのもとで、夜はお月さんのもとで、ぴかぴかとかがやいていました。それが、そばの池の水にうつって何ともいえない美しさです。

「近崎村に、ありがてゃあお地蔵さんがおられるげな。」

「なんでも、金色に光っとるということだ。」

こんな話が、口伝えに、村から村へ広がっていきました。やがて、

「どんな願いごとでも聞きとどけてくだれる、ありがたいお地蔵さんだげな。」

「それじゃあ、みんなで参りにいこまいか。」

といって、近くの村からも、遠くの村からも、おおぜいの人が、このお地蔵さんにお

参りに来るようになりました。

多くの人が来るようになると、近崎村の人たちから、

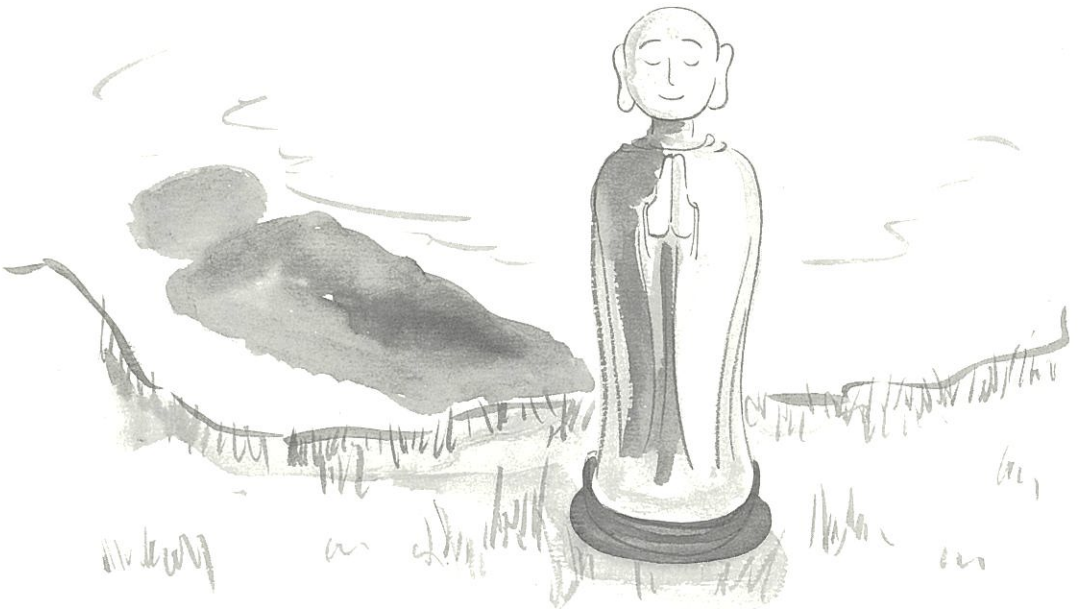
「こんなに来ちゃあ、くどくがへっちゃうかもしれんぞ。」

「どろぼうがいるかもしれん。どろぼうに目をつけられたらどうするんだ。」

「お地蔵さんがぬすまれちゃあ、たいへんだ。」

などという、意見が出されました。そこで、村人たちは相談して、お地蔵さんを人目のとどかないところに移しました。その移し場所については、村人のだれもがかたくロをつぐんでしまいました。

時がたつにつれて、金色にかがやくお地蔵さんのことは人々の話題にならなくなっ



ていきました。でも、池だけは、お地蔵さんがいなくなっても、村人から、「お地蔵さんの後ろ池」と呼ばれて、前と変わらないで青い水をたたえておりました。

やがて、お地蔵さんのことはすっかり忘(わす)れられて、お地蔵さんの後ろ池は、ただの「後ろ池」と呼ばれるようになりました。それが、いつしか、「オシロ池」といわれるようになっていきました。

北崎地区に伝わる話です。
オシロ池は、神田公民館から少し北へ行ったところにあります。
お地蔵さんにはこの世とあの世の境にたって地獄へ行く者を救ったり、村に悪い病気が入ってこないように守ってくださったりするといういわれがあります。村の墓地や村境などにたてられ、旅人はこのお地蔵さんに道中の安全をお願いしたり、道案内として役立てたりしてきました。